

生き方 中学校・高校



中学校・高校
総合

プロフェッショナル 仕事の流儀 43分

腕一本、それが男の生きる道 ～へら絞り職人・松井三都男～

(2009年放送)

この番組の良さ



機械をはるかに凌駕する技

「へら絞り」とは「へら」とよばれる棒一本で、金属板を型に沿わせて成形する技術。この技術で半導体の製造装置や気象衛星の燃料タンクなど先端技術を支える精密部品も作られています。番組では100分の1ミリ単位で様々な金属に挑み、「世界一」と言われている熱きへら絞り職人・松井三都男氏の生きざまが描かれています。

職人の本質と使命

松井氏は職人として一つのハンディキャップを抱えていましたが、「なせばなる」と信じ、技を磨き続けてきました。注文通りの物を作るのが職人。どのような状況に置かれようとも、職人には結果がすべてだという厳しさが伝わってきます。また、自分の持っている技術と職人魂をいかに若い職人に伝えていくのか。後継者を育てることも、匠の大事な使命であることが実感できます。

番組活用のポイント

工作機械は万能ではない

科学技術と職人技とが密接にかかわっているということを知っている子どもたちは少ないと思われます。番組の冒頭では最先端の技術を手作りの金属部品が支えているということが紹介されています。

おれはここで生きていこう

挫折の連続により努力することから逃げるようになっていた松井氏。現在の職場に就職しますが、不慮の事故で左手の指3本を失ってしまいます。絶望の淵にいた松井氏を支えたものは何か？逆境の中で松井氏の心に灯された希望の灯は何だったのか？ハンディキャップを負った自分がどうすれば人並みの仕事ができるのかを考え、より難易度の高い技術に挑んでいった姿から自分の生きる道を見つけ、精進し続ける人の強さを知ることができます。

満足したら職人は終わり

「完全なんて到底できやしないんだけど、目指してやれば、だんだんだんだん腕は上がってくじゃないですか。だから、完全目指してやらなきゃいけないと思うんだよね。」という松井氏の言葉。

毎日の仕事を通じて自分自身を高めるというプロフェッショナルな生き方を知ることができます。

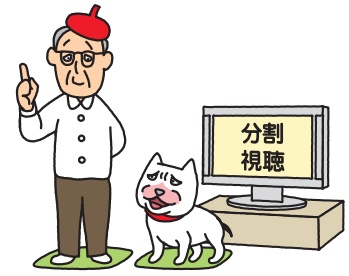
技の伝承

資源の乏しい日本にとって、技術立国は国家的な課題です。金属は、その種類だけでなくメーカーによっても性質が異なるため、松井氏は金属を絞るとき、五感を総動員するといいます。この「感」の世界の技を松井氏が後を継ぐ職人にどのように伝えているのかを垣間見ることにより、人の育成方法を考えさせることができます。

学習展開例

授業時間 100分 2単位時間目安

職人の技が最先端の技術を支える 技を伝え、つなげていく



時間配分	学習活動	教師の支援
10分	①「職人」に対して持っているイメージを発表する。	○多くの生徒に発言させ、内容を板書し、整理する。
25分	②番組を視聴する。  <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: white; font-weight: bold;">視聴</div> <ul style="list-style-type: none"> ・町工場で43年、弱みを見せることなく歯を食いしばってきた。 ・壁にぶつかったとき松井氏は常にひとつの覚悟を貫く。 (開始～20分37秒) 	○視聴部分内で表示されるキーワードを板書しておく。 ○9分05秒位で一時停止し、松井氏の言葉を板書する。 ・「なせばなるで今まできたんだからこれからもそれやるしかないですね。」 ○13分25秒位で一時停止し、松井氏の言葉を板書する。 ・「人ができないようなもんをやるのが職人だろうし、そこで逃げたら自分が終わりだというくらいの気持ちじゃないですかね。」
15分	③松井氏の言葉について感じたことをノートにまとめ、発表する。	○「金属と会話する」、「逃げない」とはどういうことを意味しているのか考えさせる。
15分	④番組の続きを視聴する。  <ul style="list-style-type: none"> ・左手の3本の指を失ってから左手をいつもポケットに入れるようになった。 ・いつしか金属の繊細な違いが誰よりも見えるようになった。 (20分37秒～29分40秒)  ・インタビューを見て感じたことをノートにまとめる。	○視聴部分内で表示されるキーワードを板書しておく。 ○挫折、不慮の事故による絶望感から脱し、“おれはここで生きていこう”と松井氏に決心させたものは何なのかに着目させる。 ○“もう俺は逃げない”と決意した後には何があったのかに着目させる。
20分	⑤番組の続きを視聴する。  <ul style="list-style-type: none"> ・「現状に満足せずより高いレベルの職人になってほしい」 (29分40秒～終わり) 	○松井氏がどのようなプロセスで若い職人に技を伝えようとしているのかを考えさせる。 ○番組エンディングの松井氏の言葉を板書する。 ・プロフェッショナルとは、「挑戦し続ける、いつまでも逃げないで挑戦し続けるってことですよ。」
15分	⑥自分の職に対する考え、松井氏の生き方から学んだことをノートにまとめ、発表する。	○人それぞれいろいろな生き方があるが、「信じるところに道は拓かれる」ということに気づかせる。

小学校展開例

職人魂

本番組は、小学校では、道徳の時間や1・2年生活、5年社会などで活用できると考える。道徳では主として集団や社会とのかかわりに関する内容で扱い、働くことの大切さや意義についての理解に活用できる。生活では、視聴後、様々な仕事で活躍している人にインタビューを行い、その考え方や生き方に学ぶことができる。5年社会では、工業生産を支える人々で取り扱い、日本の特徴的な産業や、産業の発展に関わっている人々の工夫や努力を学ぶ活動に、生かすことが可能である。(溝内正剛)